

講演会 & ライブ な日々③

古川 秀明

A 中学校の入学説明会の時に講演を依頼された。
演題は「子どもの思春期を考える」
講演時間は60分。対象は来年度入学する新一年生の保護者。
会場の会議室には例年より多い80人の人が来ていた。

最初は校長先生のご挨拶。
中学生活で大切なことの要点をまとめて話される。
なかなかわかりやすい内容で、参加した保護者のみなさんも頷きながら熱心に聴いていた。
時折ユーモアも交えたお話に、場が和んでいく。
これはやりやすいかも。
先に会場の空気を暖めておいてもらえると、とてもやりやすい。

その次は制服の採寸について。
最近は詰襟ではなく、ブレザーだ。
学ランなどと呼んでいた自分の中学時代がまるで古代史のように思える。
採寸するときは、かなり大きめのサイズを選ぶと良いらしい。
中学生の成長は著しいので、中一と中三ではかなりサイズが変わるのだそうだ。
だから今はかなりゆったり目のサイズでも、中三になると、小さいくらいになるのだそうだ。
もちろん保護者はメモを取りながら必死で聞いている。

その次は教務主任から細かい事務的な説明があった。
給食の申し込みはいつまでとか、時間割とか、諸費の納入方法とか……。
これも保護者は食い入るように聴いて、質問もたくさんあった。

会場は熱気にあふれ、良い感じになっている。
これは本当にありがたい。
講演会はライブと同じで、臨場感が大切。
すでに熱気のある聴衆を惹きつけるのは、何にも反応のない所から始めるより
もかなり楽なのだ。

そして次はいよいよ私の講演会。
ここまでは割と実務的な話が多く、会場の保護者はみんな少し疲れているかも
しれない。
ここはひとつ笑い話を入れて、みなさんの緊張を和らげたほうが良さそうだ。
ここまであんなに熱心に聴いていたから、ここで一気にリラックスしてもらい、
私の話に集中してもらおう。
うんうん、なかなか良い流れだ。
さて、どんな冗談を言おうか……。
アドリブは得意中の得意なので、出たところ勝負で行こう。
私は張り切って話し始めた。

「みなさん、こんにちは。スクールカウンセラーの古川です。今日は今から1
時間ほど話をさせていただきます。これまでの話は制服とか給食とか、諸費納入の
手続きとか、大切なお話が多かったんですけど、私の話はまあ余興みたいなも
んでして、そんな話に付き合っている間はないなあ、早く帰りたいなあと思わ
れる方は、講演が始まる今が帰るチャンスですよ。講演が始まると会場を出に
くいですからね。さあ、帰りたい方は今帰りましょう！」

会場は温かい笑いに包まれ、話が進んで行く……。と思ったが、なんと、私が
帰って良いと言った途端、一斉に保護者が立ちあがり、なんと参加者の三分の
二が会場から出て行った。

残された校長、教務主任、私の三人は開いた口がふさがってしまった。

それでも私は講演を続けた（当たり前だ）。

残られたみなさんはみんな熱心に聴いてくれた。
けどなんだか、ザラッとした感じが残った。
みんな用事があつたり、合理的に必要なことだけ手に入れられればいいのだろ
うけど、講演会を聴く余裕もあつていいのではないだろうか・・・。

口は災いの元というのを実感できた講演会だった。

シンガーソングライター
ふるかわひであき